

2018年4月2日

各位

MediciNova, Inc.  
代表取締役社長兼 CEO  
岩城 裕一  
コード番号： 4875 東証 JASDAQ  
問合わせ先： 東京事務所代表 副社長  
岡島 正恒  
電話番号： 03-3519-5010  
E-mail: [infojapan@medicinova.com](mailto:infojapan@medicinova.com)

## MN-001 の高中性脂肪血症を伴う NASH/NAFLD を適応とするフェーズ2 臨床治験の 早期終了のお知らせ — 中間解析における極めて良好な結果を踏まえて —

2018年4月1日 米国 ラ・ホイヤ発 - メディシノバ (Medicinova, Inc.) (米国カリフォルニア州ラ・ホイヤ、代表取締役社長兼 CEO: 岩城裕一) は、MN-001 (タイペルカスト) の高中性脂肪血症を伴う NASH および NAFLD を適応とするフェーズ2 臨床治験の中間解析において、極めて良好な結果が認められましたので、本治験を早期に終了することを決定しました。

MN-001 (タイペルカスト) の治療 8 週間で、プライマリーエンドポイント (主要評価項目) である血清中性脂肪値は、治療前平均値 260.1mg/dl から治療後平均値 185.2mg/dl ( $p=0.00006$ ) と統計学的に有意に減少しました。また MN-001 の安全性や許容性も良好でした。

最も重要なプライマリーエンドポイントをすでに満たしたことから、本治験を早期に終了し、速やかに次のステップに進む準備に着手します。本治験では MN-001 が NASH および NAFLD 患者における中性脂肪値を有意に減少させる効果が確認されましたが、過去の臨床治験における中性脂肪値データに鑑みると、MN-001 の中性脂肪に対する効果は NASH および NAFLD 患者だけでなく、高い中性脂肪値を認める、より多くの患者に有効な可能性が考えられます。

中間解析の詳細は 4 月 13 日 (金) にフランス パリで開催される国際肝臓会議 2018/第 53 回欧州連合肝臓研究会年次総会 (The International Liver Congress 2018, 53rd annual meeting of the European Association for the Study of the Liver (EASL)) にて発表予定です。(2018 年 1 月 29 日開示のプレスリリース参照)

本件が当社の 2018 年 12 月期の業績に与える影響は現在のところ未定ですが、業績に重要な影響を及ぼすことが明らかになった場合、確定次第速やかに発表させていただきます。

## 本臨床治験について

本フェーズ 2a 臨床治験は、高中性脂肪血症を伴う NASH/NAFLD 患者における MN-001 の効果、安全性及び認容性を評価する多施設、オープンレベル（非盲検）の治験です。治験参加者は、21 歳から 65 歳までの男女で、治験への参加条件は、組織学的な（肝臓生検による）NASH の診断または画像診断による NAFLD の診断がされており、スクリーニング期間中に血清中性脂肪値の高値（>150mg/dl）が確認されている必要があります。適格参加者は、最初の 4 週間、1 日 1 回、250mg の MN-001 を経口服薬し、続く 8 週間は 1 日に 2 回、250mg の MN-001 を服薬します。治験スケジュールは最長で 4 カ月のスクリーニング期間と合計 12 週間の治療期間に続き、最後の服薬後 1 週間以内のフォローアップ受診となります。本治験の主要評価項目は、高中性脂肪血症を伴う NASH 患者における 1) 血清中性脂肪値に対する MN-001 の効果、及び 2) コレステロール流出能の評価です。副次的評価項目は、1) 当該患者における MN-001 の安全性及び認容性、2) MN-001/MN-002（MN-001 の副生成物）の薬物動態、3) MN-001 の HDL（善玉）コレステロールまたは LDL（悪玉）コレステロール値、総コレステロール値に対する効果、及び 4) 12 週目における肝酵素値、肝臓内脂肪率の変化などに認められる MN-001/002 の効果などとなっています。

## NASH（非アルコール性脂肪性肝炎）及び NAFLD（非アルコール性脂肪性肝疾患）について

NAFLD（非アルコール性脂肪性肝疾患）は、肝細胞に脂肪が蓄積するだけの単純性脂肪肝と、炎症や肝細胞へのダメージを伴う NASH に大きく分けられます。

NASH とは、近年メタボリックシンドロームの増加により認識されるようになった、肝臓に脂肪が貯まり、炎症・肝組織へのダメージが症状としてみられる肝疾患です。発生原因にアルコールが含まれないにも拘わらずアルコール性肝障害に類似した進展を示すことが特徴です。米国国立消化器病情報クリアリングハウスの統計によれば、アメリカにおける NASH の有病率は 2-5%、これに加えて 10-20%のアメリカ人が脂肪肝であると言われていています。発生に至る機序はまだはっきりとわかっておりませんが、肥満の中年に有病率が高く、NASH 患者には、血中脂質濃度が高く、糖尿病、またはその予備軍であることが多く見られます。NASH が進行するとしばしば肝硬変を引き起こすことがあります。現時点では、肝不全を伴う肝硬変には薬物による治療法はなく、治療は最終的には肝臓移植に頼らざるを得ません。

## MN-001（Tipelkast）について

MN-001 は、経口投与の新規化合物で、いくつかのメカニズムによって線維化を抑える効果や炎症を抑える効果が期待されています。MN-001 には、ロイコトリエン受容体拮抗作用、フォスフォジエステラーゼ（主にⅢ及びⅣ）、5-リポキシゲナーゼの阻害などが認められております。近年では、5-リポキシゲナーゼ（5-LO）経路を介したロイコトリエン生合成阻害による炎症の軽減及び、線維化の予防の可能性が知られております。また、MN-001 は、遺伝子レベルでは LOXL2、Collagen Type1 TIMP-1 などの線維化を促進させる遺伝子や、CCR2、MCP-1 などの炎症を促進させる遺伝

子発現を抑制することが知られています。また各種、線維化疾患動物モデルにおいて、病理組織検査において線維化を改善することが確認されました。

FDAは肝線維化を認めるNASH治療適応に対してMN-001をファストトラックに指定しました。また、特発性肺線維症治療を適応として、MN-001をファストトラック指定し、さらにオーファンドラッグに指定しております。

過去に当社は、MN-001を気管支喘息治療薬としてその臨床開発を進めてきた経緯があります。喘息治療薬適応のフェーズ2臨床試験では、良好な結果が得られておりました。MN-001は、現在まで600名以上の方に投与されており、総じて安全性と良好な認容性が確立されております。

以上

### メディシノバについて

メディシノバ (Medicinova, Inc.) は、日本内外の国際的製薬企業との提携により有望な低分子化合物を導入し、様々な疾患領域の新規医薬品の開発を主として米国で行う公開製薬企業です。現在当社は、進行型多発性硬化症、ALS、薬物依存（メタンフェタミン依存、オピオイド依存など）をはじめとする多様な神経系疾患を適応とするMN-166（イブジラスト）及びNASH、肺線維症など線維症疾患を適応とするMN-001（タイペルカスト）に経営資源を集中することを戦略としております。ほかに喘息の急性発作適応のMN-221（ベドラドリン）及び固形がんを適応とするMN-029（デニブリン）も当社のパイプラインの一部です。MN-166についてはさまざまな適応で開発途中ですが、そのほとんどが、治験責任医師または公的、私的機関からの資金援助により行われています。当社はさらに、戦略的提携または共同機関の資金提供を受けるべく交渉を続けております。

弊社詳細につきましては<http://www.medicinova.jp>をご覧ください。メディシノバの所在地はアメリカ合衆国カリフォルニア州ラ・ホイヤ、スイート 300、エグゼクティブ・スクエア 4275（電話 1-858-373-1500）です。

このプレスリリースには、1995年米国民事証券訴訟改革法（The Private Securities Litigation Reform Act of 1995）に規定される意味での「将来の見通しに関する記述」が含まれている可能性があります。これらの記述には、MN-166、MN-001、MN-221 及び MN-029 の治療法の将来における開発や効果に関する記述などが含まれます。これらの「将来の見通しに関する記述」には、そこに記述され、示されたものとは大きく違う結果または事象に導く多数のリスクまたは不確定要素が含まれます。かかる要素としては、MN-166、MN-001、MN-221、またはMN-029を開発するための提携先または助成金を得る可能性、当社の事業または臨床開発を行うために十分な資金を調達する可能性、将来の臨床試験のタイミング、費用、計画など、臨床試験、製品開発及び商品化に付随するリスクや不確定要素、FDAに対して書類を提出するタイミング、臨床開発及び商品化のリスク、現段階の臨床試験の結果が必ずしもその後の製品開発の行方を確定するも

のではない可能性、当局の承認取得の遅延または失敗の可能性、臨床治験の資金を第三者機関に頼ることによるリスク、商品候補に対する知的財産権に関するリスク及びかかる権利の防御・執行能力に関するリスク、製品候補の臨床治験または製造を依頼している第三者機関が当社の期待通りに履行できない可能性、さらに臨床治験の開始、患者登録、完了または解析、臨床治験計画の妥当性または実施に関連する重大な問題、規制当局への書類提出のタイミング、第三者機関との提携またはタイムリーな資金調達の可否などに起因する遅延及び費用増大に加え、当社が米国証券取引委員会に提出した2017年12月期のForm10K及びその後の10Q、8Kなど届出書に記載されているものも含め、しかしそれに限定されないその他のリスクや不確定要素があります。したがって、「将来の見通しに関する記述」はその時点における当社の状況を述べているにとどまり、実際の結果または成り行きは、必ずしも予想通りにはならない可能性があることにご留意下さい。また当社には、この記述に関して、情報の修正または更新を行う義務はありません。